

メタボ健診は医療費の抑制につながらず

多くの国で肥満や心臓血管病の増加により医療費が急速に増大している。しかしながら、肥満や心臓血管病の危険因子への保健指導介入が医療機関の受診や医療費の抑制につながるのかは不明である。本研究では、日本全国で導入されている特定健診（メタボ健診）・特定保健指導による医療機関の受診や医療費への影響について、後ろ向きコホート研究を実施し検討した。

日本国内の被用者保険に加入している 40 - 74 歳で、2014 年 1 月から 12 月に特定健診を受けた 113,302 例のうち、ウエスト周囲径がカットオフ値（男性 85 cm、女性 90 cm）の±6 cmであった 51,213 例（年齢中央値 50.0 歳、女性 11.9%）が対象となった。解析の結果、特定保健指導の介入により外来受診日数は有意に減少した（-1.3 日、 $p=0.03$ ）。一方、投薬や入院、医療費とは関連がみられなかった。

今回の研究では、対象の大半が男性の労働者であったが、特定保健指導により外来受診日数は減少するものの、投薬や入院、医療費の抑制には効果がないことが示された。

出典：British Medical Journal Open. 2022 Jul 29; 12(7): e056996.